第１回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会

１．日　　時　令和６年３月26日午後６時27分～午後８時18分（１時間51分）

１．場　　所　調布市教育会館　301研修室

１．出席委員　委員長　小林達哉

副委員長　八角千里

委員　阿部隆行

委員　生野まゆみ

委員　川端宏志

委員　門脇義徳

委員　清水良夫

委員　韮澤加代子

委員　大割昌一郎

委員　阿部光

委員　所水奈

委員　関口幸司

委員　三井豊

委員　中川恵之

委員　深沢典充

委員　渡辺賢治

委員　小柳邦法

委員　伊藤宏

１．事務局出席者　教育長　大和田正治

指導室統括指導主事　門田英明

指導室統括指導主事　海馬澤一人

指導室副主幹兼指導係長　佐藤晋太郎

スポーツ振興課係長　吉野秀郷

文化生涯学習課課長補佐　山田敦子

１　開会

○司会（佐藤）　　定刻前にはなりますが，皆さんおそろいですので始めさせていただけたらと思います。ただいまより，第１回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を開催いたします。

本日は年度末の御多忙の中，また悪天候の中,御出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日，司会を務めます指導室の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。

次第に移る前に，事務局より連絡がございます。まず，資料の確認をさせていただけたらと思います。本日資料がかなり多くなっております。次第と資料１から資料13まで御用意をさせていただいております。いったん御確認をいただきまして，会の途中で不足に気づかれましたら，そのときに挙手いただければ順次配布させていただきますので,よろしくお願いいたします。

また部活動の地域連携・地域移行の取組に関しては，今後様々な方の協力が必要になってきます。本検討委員会の議論の経過を広く市民や関係者に周知して，取組の理解促進を図る必要がございます。本日の議事内容を録音させていただき，記録作成の上，後日市のホームページへ公開させていただきますので，あらかじめ御了承ください。

それでは，次第の２です。あいさつというところで，調布市教育委員会教育長・大和田正治よりあいさつを申しあげます。

２　あいさつ

○大和田教育長　　皆さん，こんにちは。ただいま御紹介いただきました調布市教育委員会教育長の大和田と申します。どうぞよろしくお願い申しあげます。

本日は御多用の中，また足元の悪い中，第１回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会に御出席いただきまして，誠にありがとうございます。

検討委員会の開催に際しまして，一言ごあいさつを申しあげたいと思います。これまで学校部活動は学校教育活動において大きな役割を担ってまいりましたが，近年は部活動加入生徒数の減少や競技等の経験のない教員による指導，そのほか休日の大会の引率，スポーツ・文化芸術団体や指導者と学校との連携など部活動の諸課題が指摘されているところでございます。

国では，持続可能な部活動の在り方について提言がまとめられております。内容といた

しましては，現在の学校単位の活動から地域単位での活動に移行していくとされており，休日の部活動の地域への移行を平日の部活動に先駆けて行うものとされております。こうした国の動向も踏まえまして，今後の学校部活動の地域への移行を進めるに当たり，本検討委員会において部活動の今後の方向性について共通理解を図るとともに，地域の子どもたちは学校を含めた地域で育てるという意識の下，調布の地域資源を活用したスポーツ・文化芸術活動の機会の充実を図る検討を行っていただきたいと思っております。

結びに未来ある調布の子どもたちのため，また子どもたちを支える教育関係者や地域の方々を含めた多くの関係者のために委員の皆様方には大いに忌憚のない意見を交わしていただき，調布市の地域移行に関する方向性を示していただきたいと考えておりますので，どうぞよろしくお願い申しあげます。

○司会（佐藤）　　教育長におかれましては所用のため，ここで退席をさせていただきます。

○大和田教育長　　どうぞよろしくお願い申しあげます。

３　調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会について

○司会（佐藤）　　続いて，次第の３番，調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会について，初めに(1)検討委員会の設置要綱について事務局より御説明いたします。

お手元の資料１をお願いいたします。まず第１に，設置の目的でございます。調布市立中学校の生徒における豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現に向け，学校部活動の段階的な地域連携及び地域移行について検討するため，本会を置くものでございます。

第２の所掌事項でございます。まず，部活動の地域連携及び地域移行の在り方に関すること。また第２として，仕組みづくりに関すること。第３に，その他必要な事項に関すること。こちらの内容を本検討委員会で議論させていただきたいと思います。

第３の組織についてです。別表に掲げる者をもって構成というところで裏面に委員会の名簿といいますか，委員の一覧を掲載させていただいております。まず学識経験者の枠，また学校の枠，そして小・中学校の校長先生，また保護者の枠ということでＰＴＡ連合会から来ていただいております。またスポーツ・文化関連団体，市の教育部と生活文化スポーツ部，行政経営部の関連職員となっております。

表にお戻りいただいてよろしいでしょうか。第４，任期についてでございます。教育長

が任命した日から年度の３月31日までとさせていただいております。こちらにつきましては，本日が３月26日なので本年３月31日までがいったんの任期になります。ただ，特段の変更がない限りは次年度につきましても再任させていただければと考えております。

続いて，第５の委員長及び副委員長について，この検討委員会には委員長と副委員長を置かせていただきます。委員長及び副委員長は委員の互選によるということで，後ほど決めさせていただきます。

飛びまして，第７の検討部会です。本会が親会という位置付けになります。また実際の細かい議論を進めるために今後検討部会を設けまして，そちらで議論も進めていくと。そこの議論の中身をまた改めて本会に報告させていただくといった流れで考えております。

第８の庶務ということで，こちら教育部指導室，また生活文化スポーツ部のスポーツ振興課の両部連携の下，取り組んでまいります。

検討委員会の要綱の説明については以上でございます。

なお，検討委員会委員の任命につきましては本日配布しております資料２です。こちらの委員名簿をもって任命と代えさせていただきますので御了承ください。

以上で説明を終わります。

では，続いて，(2)検討委員会委員についてでございます。資料２の名簿に記載されている方が本検討委員会の委員になります。

資料２をお出しください。本日は小学校長会長の安藤委員，上から３つ目です。所用により欠席となっております。

それでは，委員の皆様から一言ずつ自己紹介をしていただけたらと思っております。名簿の順番とは変わってしまうのですが，市の職員から順に自己紹介をいただければと思います。まずは小林委員から伊藤委員まで順に自己紹介いただけたらと思います。お願いします。

〇小林委員　　皆様，こんばんは。お忙しいところをお集まりいただきまして，ありがとうございます。

本日から部活動の地域連携・地域移行に関しまして，皆様の御意見をいただきながら検討を進めてまいりたいと思っております。今日盛りだくさんの内容ですけれども，コンパクトに進めさせていただければと思います。事務局も頑張ります。よろしくお願いいたします。お世話になります。

〇阿部（光）委員　　教育部次長の阿部と申します。よろしくお願いいたします。

調布の子どもたちが，今も一生懸命頑張っていますけれども今後ともずっと部活で頑張っていけるような，そういった体制づくりができるといいなと思っておりますので，よろしくお願いいたします。

○所委員　　調布市教育委員会指導室長の所と申します。よろしくお願いいたします。

小・中学校の様々な指導事務といったところを所管している部署でございます。学校部活動と言われているものがありますけれども，こちらを徐々に地域にということで，子どもたちは地域の子どもたちなので地域の中で生涯にわたってスポーツ・文化，そういう活動に携わっていけるようぜひ皆様のお知恵を拝借したいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○関口委員　　教育部教育総務課施設担当課長の関口と申します。日ごろは学校施設の維持管理を担当しております。どうぞよろしくお願いいたします。

○三井委員　　指導室学校教育担当の三井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

国のほうの大きな動きですので，皆様方のお力なくしてできないと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○中川委員　　教育部社会教育課課長の中川でございます。よろしくお願いいたします。

○八角委員　　ここから生活文化スポーツ部です。私は生活文化スポーツ部長の八角です。どうぞよろしくお願いいたします。

部活動の地域連携・地域移行について，調布ならではの資源を活用して，その推進を担うセクションの生活文化スポーツ部であると思います。皆様方の御意見をいただきながら，調布市としての方向性を見出していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○深沢委員　　生活文化スポーツ部次長の深沢です。どうぞよろしくお願いします。

○渡辺委員　　生活文化スポーツ部文化生涯学習課長の渡辺でございます。

市の文化芸術の振興に向けた施策を所管している部署になります。調布の生徒たちが部活動をより充実できるように努めて参ります。

○小柳委員　　生活文化スポーツ部スポーツ振興課長の小柳と申します。どうぞよろしくお願いします。

○伊藤委員　　皆さん，こんばんは。行政経営部企画経営課長の伊藤と申します。私の部門では庁内における各施策の調整を担うような役目を担っておりますので，よろしくお願いいたします。

○司会　　ありがとうございます。

それでは，これから外部の委員の自己紹介をお願いできればと思います。まず，阿部准教授からお願いいたします。

○阿部（隆）委員　　こんばんは。玉川大学教育学部から来ました阿部と申します。よろしくお願いします。

私，現在，中高保健体育教員養成課程，保健体育を担当しております。専門は体育スポーツ教育学です。大学教員になる前は，実は中高で保健体育の教員をしておりまして，部活動も担当しておりました。現在藤沢市と横浜市の市立の中学校で部活動コーディネーターということで，外部指導員も経験しておりますので，様々な立場から貢献できていけたらなと思っております。よろしくお願いします。

○生野委員　　神代中学校校長の生野です。よろしくお願いします。

調布市が出している運動部活動，文化部もそうなのですが方針の中に，教員の部活動指導は教員の奉仕的な教育活動で実施していくことを伝えておく必要がある，とあります。それを踏まえ皆さんのお力添えで何とかいい方向に向くといいなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

○川端委員　　調布市ＰＴＡ連合会副会長の川端といいます。

私自身は調布第七中学校のＰＴＡ会長をやらせていただいております。一番子どもたちと先生に近い位置にいるのかなと思っているのと同時に，今，調布の第七中学校サッカー部の部活外指導員もやらせていただいております。そういう意味では現場の先生たちの声とか，そういったものを拾ってくることが可能なのかなと思います。ぜひ子どもたちのためによりいいものができればなと思いますので，どうぞよろしくお願いいたします。

○門脇委員　　調布市スポーツ協会事務局長の門脇と申します。よろしくお願いいたします。

我々スポーツ協会は加盟団体が33ありまして，１万人近くの会員がございます。また調布市スポーツ指導員，調布市のスポーツボランティア，最近では障害者のスポーツボランティアなどもかなりの方々，組織を抱えております。スポーツ協会としても部活動については重要事項として取り組んでいきたいと考えておりますので，よろしくお願いいたします。

○清水委員　　こんばんは。調布市スポーツ推進委員会の会長をやっています清水良夫と申します。よろしくお願いいたします。

○韮澤委員　　調和ＳＨＣ倶楽部副会長の韮澤加代子と申します。よろしくお願いいたします。

子どもたちの健全育成に欠かせない部活動を，総合型スポーツクラブというところで一翼を担っていければと考えております。よろしくお願いいたします。

○大割委員　　文化・コミュニティ振興財団の大割と申します。たづくり，グリーンホール，せんがわ劇場の文化芸術に関する施設を管理運営している団体でございます。よろしくお願いいたします。

○司会　　皆様，ありがとうございました。

続いて，事務局職員の自己紹介をさせていただきたいと思います。

○事務局（門田）　　改めまして，こんばんは。教育委員会指導室で統括指導主事をしております。学校担当をしております。部活動の地域移行・地域連携というところで，このセクションで力を発揮していきたいと，尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（海馬澤）　　同じく，指導室統括指導主事で教育支援を担当しております海馬澤と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（吉野）　　スポーツ振興課係長をしています吉野と申します。よろしくお願いします。

○事務局（山田）　　文化生涯学習課の課長補佐をしております山田と申します。よろしくお願いいたします。

○司会　　以上で委員と事務局職員の紹介を終わらせていただきます。

では，続きまして，次第の(3)番，委員長，副委員長の選任に移りたいと思います。委員会要綱の第５の２では委員の互選によることとしておりますが，事務局からも御提案をさせていただきたいと思います。

まず委員長につきましては，中学校部活動の地域連携・地域移行の在り方を検討するという本検討委員会の趣旨を踏まえ，現在の学校部活動を所管する教育部の小林部長を，また副委員長につきましては，今後の地域連携・地域移行の枠組みを検討する上でスポーツ・文化資源の活用は不可欠でありますので，その推進を担う生活文化スポーツ部の八角部長を御提案させていただきます。この提案内容以外で何か御意見のある方，いらっしゃいますでしょうか。

（「なし」との声あり）

○司会　　それでは，事務局の提案どおり委員長は教育部長，副委員長は生活文化スポーツ部長としてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○司会　　ありがとうございます。

それでは，そのように決定させていただきます。

それでは，これより司会を委員長の小林部長にお願いしたいと思います。

○小林委員長　　改めまして，委員長を務めます小林でございます。円滑な議事に御協力いただければと思いますので，よろしくお願いいたします。

さて，ここからは次第に沿いまして進めさせていただきたいと思います。盛りだくさんなのでどんどん行きたいと思います。

まず，次第の３の(4)です。検討委員会における検討の進め方についてに移ります。事務局，説明をお願いいたします。

○事務局（吉野）　　それでは，私から説明いたします。

お手元の資料３を御覧ください。さきの要綱の説明でもございましたが，本検討委員会は調布市立中学校の生徒における豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現に向けて，部活動の段階的な地域連携及び地域移行について検討するということを目的として設置しております。

検討に当たりましては本検討委員会での議論はもとより，今後立ち上げを予定しております実務者による検討部会における議論を重ねまして，令和６年度中に調布市立中学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進計画を策定してまいりたいと考えております。

推進計画では地域連携・地域移行に関する課題，また市の目指す将来像に向けたロードマップの作成や，令和７年度までの改革推進期間及びそれ以降を見据えた取組の方向性などについて整理をしていく予定です。

検討委員会等の日程につきましては本資料の３でお示ししておりますが，本日の第１回検討委員会を皮切りに検討部会において議論を重ねまして，本年７月ごろに開催を予定しております第２回検討委員会において推進計画のたたき台をお示しし，10月の策定を目指しております。

なお，計画の策定プロセスにおきましてはパブリック・コメント手続ですとか，また子どもたちへのヒアリングの実施など幅広く意見を伺う取組についても検討してまいりたいと考えております。最終的には令和６年度末に第４回目の検討委員会を開催いたしまして，

令和６年度中の取組ですとか，次年度に向けた取組を御報告させていただき，課題の洗い出しや検証につなげてまいります。

私からの説明は以上です。

○小林委員長　　以上で説明が終わりました。これにつきましてはよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○小林委員長　　今後の進め方ということで御了承いただければと思います。よろしくお願いいたします。

―――――――――――――――　――　―――――――――――――――

４　中学校部活動地域連携・地域移行に関する国・都の考え方について

○小林委員長　　それでは，次に次第の４に入っていきます。中学校部活動地域連携・地域移行に関する国・都の考え方についてでございますが，ここで現在の国や東京都の考え方，スタンスを改めて共有させていただきたいと思います。(1)と(2)，一括して事務局から説明をさせていただきます。では，お願いします。

○事務局（門田）　　それでは，国及び都の考え方について資料に沿って御説明させていただきます。

まず，資料４をお願いいたします。中学校部活動地域連携・地域移行に関する国の考え方について御説明をしていきたいと思います。国においては令和４年12月に，学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインを策定し，広く周知を図ってきております。その中で少子化が進む中，将来にわたり生徒がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる機会を確保するため，速やかに部活動改革に取り組む必要があることや，その際，生徒の自主的で多様な学びの場であった部活動の教育的意義を継承・発展させ，新しい価値が創出されるようにすることが重要であるということが示されました。

また部活動の地域移行に当たっては，地域の子どもたちは学校を含めた地域で育てるという認識の下，生徒の望ましい成長を保障できるよう地域の持続可能で多様な環境を一体的に整備することや，地域の実情に応じ生徒のスポーツ・文化芸術活動の最適化を図り，体験格差を解消することが重要であるということが示されました。

具体的な取組の中には，Ｉ番に示しておりますけれども，学校部活動では教育課程外の活動である学校部活動について実施する場合の適正な運営等の在り方を従来のガイドラインの内容を踏まえつつ示されております。

Ⅱとして，新たな地域クラブ活動についても触れられており，学校部活動の維持が困難となる前に学校と地域との連携・協働により，生徒の活動の場として整備すべき新たな地域クラブ活動の在り方について言及をしております。

またⅢ番，学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備においては，新たなスポーツ・文化芸術環境の整備に当たり多くの関係者が連携・協働して段階的・計画的に取り組む。その進め方について示されております。

主な内容としましては，まずは休日における地域の環境整備を着実に推進するということ。平日の環境整備はできるところから取り組み，休日の取組の進捗状況等を検証し，さらなる改革を推進すること。令和５年度から令和７年度までの３年間を改革推進期間として地域連携・地域移行に取り組みつつ，地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指すこと。こちらが示されております。

Ⅳでは，大会等の在り方の見直しについて学校部活動の参加者だけでなく，地域クラブ活動の参加者のニーズ等に応じた大会等の運営の在り方について示しております。

併せまして，資料４の参考資料としまして，部活動の地域連携・地域移行に関する補足資料を付けております。裏面になりますけれども，部活動の地域連携とは何なのか，地域移行とは何なのか，また部活動と地域クラブ活動の違い，そちらについても触れております。少し読ませていただきます。

部活動の地域連携について,複数校でまとまって１つの部活動とする合同部活動の導入や，部活動指導員等の地域の人材を活用することにより，飽くまで学校で運営・実施しつつも,生徒の活動機会を確保するものです。

続いて，部活動の地域移行についてですが，地域の多様な主体が運営・実施する地域クラブ活動によって部活動を代替するものです。学校とも連携しながら,多様な活動を可能な限り低廉な会費で実施をいたします。

では，部活動と地域クラブ活動はどこが違うのかというところでございますが，学校部活動については，学校が主体となって行われる部活動である。学校の中で実施をしているもの。複数校でまとまって１つの部活動を行う合同部活動の導入であったり，部活動指導員等の地域の人材を活用することを推奨していくとされております。

では，これが地域クラブ活動に変わるとどうなってくるのかというところですが，地域が主体となって行われる活動。学校から主体が地域に変わってくる。また２点目としては市民体育館であったり，公民館，学校体育施設など多様な場所で実施が可能になってくる。

あとここがポイントになろうかと思いますが，多世代・多種目な活動になってくるというところです。こういった形で国も移行について資料等を広く普及し，周知を図ってきているという状況がございます。

それでは，続いて東京都の考え方についてですが，資料５をお願いいたします。東京都においては令和５年７月24日に，生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動を実現するため，学校部活動の地域連携・地域移行に関する連絡協議会を開催し，意見交換や情報共有が行われております。

資料の１ページ目では，学校部活動及び地域クラブ活動に関する総合的なガイドラインについて示し，新たな取組の１つとして，学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備について言及をしています。令和７年度末には，すべての公立中学校等で地域連携・移行に向けた取組を実施するということを目標に掲げております。

資料，２ページ目をお願いいたします。ここでは学校部活動の地域連携・地域移行に関する推進計画について示されております。

推進の目標として，ガイドラインと同様に令和７年度末までに都内すべての公立中学校等で地域や学校の実態に応じ，地域連携・移行に向けた取組を実施するとしております。

取組の方向としましては，スポーツ・文化芸術団体等と連携をし，学校と地域がちょうど融合した形で関係者間の連絡体制の構築であったり，指導者を確保するということが示されております。以下は具体の取組内容について記載されております。

説明については以上になります。

○小林委員長　　ありがとうございました。国及び東京都の方針の枠組みということで，イメージのほうをつかんでいただけたかなと思います。

いずれの資料においても，今後もちょっと出てまいりますけれども，令和５年度から７年度までの３年間が改革の推進期間であるということになりますので，５年度の本当に最後の最後の今日の会合になりますけれども改革推進期間に当たっていると。今後６年度，７年度をどうしていくか。そういうイメージを共有できればと思っております。何か御質問とか大丈夫ですか。

（「なし」との声あり）

○小林委員長　　具体の内容はまたこれからも出てまいります。全体の共有ということでよろしくお願いします。

ここから大きな５番から６，７，８と一括して，まとめて説明をさせていただきます。

都度止まってはいきますけれども，最後のところで質疑応答をまとめて行いたいと思いますので，その旨御承知おきをいただければと思います。よろしくお願いいたします。

――――――――――――――――――――――――――――――――

５　調布市立中学校部活動の現状について

○小林委員長　　それでは，大きな５番です。調布市立中学校部活動の現状についてに移ってまいりたいと思います。(1)から(4)まで，それぞれ資料を用いて説明をさせていただきます。

それでは，お願いします。

○事務局（門田）　　それでは，５番，調布市立中学校部活動の現状について，資料で私のほうから御説明をさせていただきます。

まず，資料６をお願いいたします。調布市立中学校の部活動の現状について御説明いたします。ここでは今後の調布市における生徒数の推移について御説明いたします。

中学校の推計結果の概要としましては，お示しのように生徒数は令和６年度にいったん減少し，その後は増加の見込みでございます。要因としましては，令和５年度までに児童数が増加した小学校区から学年進行により中学校に移行するため,人口の増加が見込まれております。調布市の人口推計と照らし合わせると，中学生の人口ピークは令和11年というようにされております。全国的な傾向と比較しまして，調布市の子どもの数は全国の傾向に反して増えてきているような状況がございます。

それでは，続きまして，資料７をお願いいたします。(2)番，調布市立中学校部活動一覧となってございます。こちらは東京都が毎年実施しております部活動実施状況調査の結果から引用しております。今年度については12月に取りまとめを実施しております。運動部と文化部に分けてお示しをいたしております。運動部については表面，文化部については裏面に記載をしてございます。

参考までに調査項目にはありますが，本市の中学校では設置していない部活動名も記載をさせていただいております。本市の中学校において設置している部活動の実態になりますので，例えば調布中のサッカー部であれば男子の活動のみ，バスケットボール部においては男女別々で活動している。そういった見方をしていただければと思っております。

資料７については以上となります。

続きまして，(3)番に入ります。調布市立中学校の部活動を支援する人材についてでございます。

資料８をお願いいたします。本市においては教員に代わり部活動の指導を行う部活動指導員，専門的な知識・経験を踏まえた指導を行う部活動外部指導員，また顧問や部活動外部指導員の補助を行う部活動外部指導補助員が部活動の支援を行っている状況でございます。

部活動指導員と外部指導者の違いについてでございますが，資料下段を御覧いただければと思います。部活動指導員は市で雇用する会計年度任用職員で，部活動の顧問となることが可能となっています。単独での部活動指導，大会の引率が可能という位置付けとなっております。外部指導者については部活動指導員以外の指導者で，学校設置者との雇用関係によらず学校外の指導者等との連携・協力関係の下，部活動の指導に加わってもらう方のことを指しております。

部活動指導員については，令和５年度実績で18人の方を学校配置しております。こちらにつきましては，令和６年度においても拡充をしていくという方向で今進めておるところでございます。

それでは，続きまして，資料９をお願いいたします。調布市における休日の部活動の地域移行に関するアンケート調査の実施計画についてでございます。本アンケート調査については令和４年12月に実施したものになります。実施の対象としましては中学校１，２年生，その保護者，教員に対して実施をしております。

１枚めくっていただきまして生徒向けアンケート調査結果でございますが，アンケート項目の４番になります。休日の部活動が地域移行した場合，現在取り組んでいる種目以外にどのような種目の活動をやってみたいと思いますかとの質問に対する回答で多かったものとしては，バレーボールであったり，バドミントンが挙げられております。

また，アンケート項目５の移行されることに対する期待。こちらの質問に対する回答では，専門的な指導が受けられることであったり，他校の生徒との人間関係が作れるといった回答を選んでいる状況がございました。

また逆にアンケート項目６の移行されることに対する不安について，こちらの質問に対する回答では，平日と休日で指導者が変わることに対しての不安が高いということが分かりました。

１枚めくっていただきまして，保護者向けのアンケートになります。保護者向けのアンケートにおきましても同様の質問を行っております。

質問２の移行されることに対する期待についての回答では生徒アンケートと同様の傾向

を示しておりますが，質問３の移行されることに対する不安。こちらの質問に対する回答では,希望する地域部活動があるかについてや保護者の負担について不安があるということが分かりました。

まためくっていただきまして，教員向けのアンケートになります。教員向けのアンケートでは，部活動の地域移行に向けた取組を進めることへの理解や期待がうかがえる。そういった回答内容でございました。

本資料においては，この後の質疑であったり，意見交換における参考にしていただければと考えておりますので，よろしくお願いいたします。

それでは，部活動の現状の説明については以上となります。

○小林委員長　　ありがとうございました。先ほど少し触れましたが，外部委員の皆様には質疑応答のときに一言御意見をお寄せいただければと思います。そういった視点も持ちながら説明を聞いていただければと思いますので，よろしくお願いいたします。

６　地域連携・地域移行の在り方について

○小林委員長　　それでは，次に大きな６番です。地域連携・地域移行の在り方についてということで(1)，(2)，それぞれ御説明をお願いいたします。

○事務局（門田）　　それでは，引き続き私のほうから御説明をさせていただきます。

まず私からは(1)番，他自治体の事例等というところで御説明をさせていただきたいと思います。

資料10をお願いいたします。こちらの資料は東京都が先ほど申しあげました連絡協議会における資料として用意しているもので，そちらから抜粋したものになってございます。顕著な事例として１枚目の渋谷区であったり，めくっていただいて日野市の事例が掲載されてございます。まためくっていただきまして４枚目にありますが，本市の第四中学校の取組も紹介されているという状況でございます。

これらの資料の中で，地域移行に向けた実現可能性についての実践が取りまとめられております。その中で成果としましては，地域移行に向けた可能性について言及されております。一方，課題としては行政機関以外の運営の受け皿の必要性であったり，受益者負担以外の運営について，その検討が必要であるということが挙げられておりました。

また戻っていただいて，資料の３枚目の生徒の多様なニーズに応える部活動の事例を３つほど，ページで申しあげますと113ページです。こちらに示されている中学校と３つの

取組事例においては，今後の本市の取組においても参考になってくる。そういった事例ではないかなと考えております。

事例の紹介については以上になります。

○小林委員長　　では，続けて(2)をお願いします。

○事務局（吉野）　　それでは，私から調布市の地域資源について御説明します。

資料11を御覧ください。まず，２ページから５ページにはスポーツ関係の内容が記載されております。調布市には本日もお越しいただいておりますが調布市スポーツ協会ですとか，スポーツ推進委員，また総合型地域スポーツクラブである調和ＳＨＣ倶楽部などのスポーツ関連団体。また５ページに記載しておりますＦＣ東京ですとか，東芝ブレイブルーパス東京，東京サントリーサンゴリアス，読売巨人軍や，ＮＴＴ東日本バドミントン部といったトップスポーツチームなど豊富なスポーツ資源があり，こうした多様な主体と連携しながらスポーツ施策の推進を図っております。

また，６ページには文科系の団体について記載しております。文化部門におきましては調布市文化・コミュニティ振興財団や調布市文化協会，また協力協定を締結している劇団芸優座など，多様な主体と連携しながら豊かな文化芸術活動の推進を図っております。

また，７ページです。こちらは文化，教育，学術，スポーツなどの分野で援助・協力し，相互発展を図ることを目的として７つの大学と相互協力協定を締結しておりまして，様々な分野において継続的な連携を推進しております。時間の都合上，各団体の個別の御紹介は割愛させていただきますが，これら調布の地域資源を念頭に今後の議論につなげていただければと思います。

私からの説明は以上です。

○小林委員長　　ありがとうございました。部活動の先行事例を参考にしながら，豊富な調布の地域資源というものをうまく有機的に連携させていただきながら，いい形での地域移行・地域連携というものが進められればと思っておりますので，御承知おきのほどお願いしたいと思います。

７　調布市の部活動地域連携・地域移行の方向性について

○小林委員長　　それでは，その次，大きな７番です。調布市の部活動地域連携・地域移行の方向性についてということで，Ａ３判のカラーの資料を用いて御説明させていただきたいと思います。

では，お願いします。

○事務局（門田）　　それでは，私のほうから調布市立中学校部活動地域連携・地域移行について，方向性という形で資料12（案）と書いてあるものを御用意いただければと思います。こちらについて御説明をさせていただきます。

まず１番の部活動を取り巻く現状ですが，３点挙げさせていただいております。

１点目が活動経験のない部活動の指導をせざるを得なかったり，休日も含めた部活動の指導が求められたりする等，教員にとって大きな業務負担があるということ。２点目が近年，中学校の部活動加入生徒数の減少が加速化している。特に持続可能性という面で，既存の部活動を存続させることに厳しさが増加している状況があるということ。３点目としましては，スポーツ・文化芸術団体や指導者等と学校との連携・協働に課題が見られるということが言われております。

では,実際に２番で部活動の加入状況についてお示ししております。こちらは先ほどの資料でございます令和５年度の部活動実施状況調査の結果から，本市の加入状況について数字をもって示させていただいております。実際に運動部，文化部ともに令和４年度，令和５年度と比較して加入率を見ていくと，パーセンテージでお示ししているところで運動部，文化部，両部とも減少傾向にあるという状況がございます。

こういった状況を踏まえて今後の方向性というところで３番なのですけれども，資料４，５で御説明しました国や東京都の考えを受けまして，本市においては方向性について２つに分けて考えていきたいと思います。先ほど申しあげました令和５年度から令和７年度末の改革推進期間においては休日における段階的な地域連携の実施を行い，改革推進期間以降には改革推進期間における取組の検証・分析を行った後，平日を含めた地域連携・地域移行に向けた取組を実施していきたいと考えております。

最終的には４番，目指す姿（ゴールイメージ）という形でお示ししておりますけれども，このゴールイメージに近づけていきます。

１点目としては，子どもや大人，高齢者や障害者の参加・交流を推進する地域スポーツ・文化芸術活動の中に部活動を取り込む。ウェルビーイングを実現し，まちづくりの推進を図っていく。ウェルビーイングというのは昨今大きく取り上げられている言葉でもありますけれども，個人の幸せから地域社会の幸せへ全体に波及していく。幸せを追求していく。そういう考えを示している言葉でございます。

戻りまして２点目になりますが，地域の子どもたちは学校を含めた地域で育てるという

意識の下，調布の地域資源を活用したスポーツ・文化芸術活動の機会の充実を図る。最終的には，この２つをゴールイメージとして取り組んでいきたいと考えております。

さしあたっては，５番になりますが調布市の学校部活動の将来像という形で，こちらの確立に向けて取り組んでまいりたいと考えております。学校部活動が地域へ移行していく流れとしましては，現行の学校教育で行っている学校部活動を，学校・地域の協働・融合による学校部活動と地域クラブ活動が併存していく。そういう状況まで，まず進めていきたいと思います。最終的には，まちづくりにつながる地域スポーツ・文化芸術活動へと移行していくように考えてございます。

取組としましては学校部活動と地域クラブ活動が併存している期間に，学校がまず主体となる地域連携を進めてまいります。具体的に申しあげますと，合同部活動を展開してまいりたいと考えております。また，地域が主体となる地域移行の取組も取り組んでまいりたいと考えてございます。休日の活動から始めまして，地域資源を活用した地域スポーツ・文化芸術活動の実施を並行して取り組んでいきたいと考えております。

こちらのスケジュール感としましては６番です。国や東京都の流れと市の取組をリンクさせた形でお示ししてございます。改革推進期間を含め，この間の取組内容としましては推進計画の策定。６番，下段のところに４点示しておりますけれども推進計画の策定，あと基礎調査の実施。合同部活動等の事例創出・課題の洗い出し，課題解決策の検討・試行。地域クラブ活動のモデル実施・課題分析。最後に成果の普及，進捗状況の検証，地域クラブ活動の整備促進。こちらの４点を想定しております。

市の部活動地域連携・地域移行の方向性についての説明は以上となります。

○小林委員長　　ありがとうございました。説明の中にもありましたけれども，資料12，方向性についてというところは前段にありました国及び東京都の方針ですとか，あるいは調布市立中学校部活動の現状について，それから地域連携・地域移行の在り方についてのまとめというように御理解をいただければと思います。こういった方向でよろしいかという確認を後に御意見もいただきながら，本日は確認をさせていただければと思います。質疑の中で，これについての御意見を求めていければと思いますので，よろしくお願いいたします。

８　地域資源を活用したトライアル事業（案）について

○小林委員長　　もう１つ，資料がございます。次第８です。地域資源を活用したトライ

アル事業（案）についてということで，こちらの説明もお願いいたします。

○小柳委員　　それでは，私から８番，地域資源を活用したトライアル事業（案）について御説明させていただきます。

資料13を御覧ください。こちら地域資源を活用したトライアル事業（案）についてということで，先ほど資料12の調布市立中学校部活動地域連携・地域移行の方向性についての御説明の中に，本検討委員会の中で推進計画の策定を行うとともに，今後の円滑な地域連携・地域移行に向けた課題の洗い出し及び課題解決策の検討・試行に取り組むため，地域資源を活用したトライアル事業の実施というものを行おうと考えております。トライアル事業は検討委員会や検討部会においても御意見をいただきながら,推進計画に位置付けて継続的に実施をしてまいりたいと考えております。その中で令和６年度の取組として，推進計画の検討と併せて具体的な事業内容を検討・実施してまいりたいと考えています。

実施内容の想定について１番になるのですが地域資源を活用した合同部活動の実施というものを，トライアル的に実施をしていきたいと考えています。今想定している内容としましては，先ほど調布のスポーツ資源の中でも紹介させていただいたと思うのですが，調布市ゆかりのトップスポーツチーム。例えばＦＣ東京ですとか，あと野球の読売巨人軍とか，バドミントンのＮＴＴ東日本バドミントン部ですとか，そういった主体の方々と連携した合同部活動というものを実施してまいりたいと考えております。

トライアル事業を実施する中で，２番の検証する課題（想定）としては活動場所の在り方ですとか，トライアル事業を実施した中での生徒の満足度，実施のための学校との調整等々の課題，市の関与の在り方とか，そういった課題が出てくるかなと思っております。そういった内容をトライアル事業を経てしっかりと検証して，推進計画等に位置付けてまいりたいと考えております。

説明は以上になります。

○小林委員長　　ありがとうございました。学校の枠を越えて合同部活動の実施ということで，トライアル事業の説明がございました。令和６年度におきましては検討を進めていくということで，御承知おきをいただければと思います。

以上，一気に説明をさせていただきました。ここからは，ゆっくり時間を取りながら質疑応答，それから意見交換の時間とさせていただきたいと思います。ぜひ皆様に一言触れていただきたいなと思うのは，資料12の今後の方向性についてどうだというところは忌憚のない意見をお教えいただければと思いますので，お願いいたします。事前に宣告させて

いただいたように，まず外部委員の方から行きたいと思います。阿部委員におかれましては，皆さんの質疑とかお聞きいただいた上で全体の総括的なお話も伺えればと思います。そうなりますと生野先生から順番に進めてまいりたいと思いますので，まず生野委員，よろしくお願いいたします。

○生野委員　　御説明ありがとうございました。これについて中学校では，いつ本腰を上げて立ち上がるのかと首を長くして待っていたところなので，喜んでいるところです。地域連携というのは各学校で始めているところだと思うのですが，やはり学校の負担が大きくて，地域連携ではなかなか現状と余り変わらない状態かなと思っています。予算もありますので外部人材を活用するのも限界があるし，外部人材はだれでもいいというわけではなくて，学校って教育現場で子ども相手なのでいろいろと細かいところに問題というか，注意しなければいけないことがありますから，そこら辺の人選もとても苦労しているところです。

それから地域移行については今日午後，校長会があったので，現状と課題について話し合ったところなのですが，競技人数の多いところ，中体連でやっている種目。サッカー，バスケ，野球，陸上，バドミントンとか，そこら辺から始めていただくとモデルケースになって，市の中で地域移行を広げていくときに大いに参考になるのではないかなという意見が出ていました。

ただ，どこから始めるかで，例えばサッカーといったときにサッカーをやりたい教員もいたりするので，うちはサッカーをやらないというと保護者がどうしてサッカーはやらないのだとなるので，調布市で一斉にサッカーは全部地域移行にしますとならないとうまくいかないのかなと思ったり。ただ，教員のやりたいもあるので難しいと思っていて，本当に部活動は難しいです。

学校では，既存の部活を閉じることが難しいです。以前いた学校では，生徒数が少ないので，サッカーも１チームなくて，ソフトも１チームなくて，人数的に試合に出られない状況であっても閉部するというと，保護者から不満の声が上がりました。在籍する生徒が卒業するまでは活動を続けていたにもかかわらず，それでも将来的に閉部するというと入部が少なくなるのではないかみたいな声が上がり，本当に閉じるのは難しいと思いました。

地域連携では，ミニバスをやっている方たちに対象を小学生から中学生まで広げてもらって，土日に見てもらうようにしたら，それはうまくいっているようです。地域移行では，サッカー部が１チームいなかったので，地域のサッカーに入れてもらうということで，も

う全部お任せしてやってもらっています。

○小林委員長　　ありがとうございます。先生，資料12,この辺のイメージというのはいかがですか。今地域連携ではなくて,移行に向けてというお話もいただきました。逆にどこまで進められるかという現実問題もあろうかと思うのですけれども，その辺いかがですか。

○生野委員　　地域移行が後のほうから始まっているので，一緒に始めてもいいのかなと思います。

○小林委員長　　なるほど,そこですね。地域連携の限界というお話も今伺いまして，一気に地域移行に向けてということだったかと思います。地域の皆様の声，保護者の声というところもしっかり押さえながら進めていければなと思います。ありがとうございました。

それでは，お隣，川端委員，お願いします。

○川端委員　　まず，質問だけさせてください。２番の部活動加入率が下がっているではないですか。何で下がっているか把握していらっしゃいますか。

○小林委員長　　お願いします。

○事務局（門田）　　現状として何が原因となって下がっているかというところで申しあげると，分析がそこまでできていない現状がございます。ただ，その年々によって加入率の変動があるのは事実で，学校間では加入率が伸びている学校ももちろんありますし，その逆もしかりなのですけれども，トータルおしなべてみると調布の中学生の加入率というのは下がってきている。言うなれば，学校間で加入について温度差があるという現状は認識しております。

○川端委員　　ありがとうございます。

まず親目線からお話しさせてもらうと，学校で部活動があるって安心なところがあるのです。平日，部活動をやっていれば必ず学校にいてくれるから，そこで好きなスポーツをやったり，文化的なことをやったりという目線で見ると学校にいてほしいなと。それが家に帰ってきたときに何するか分からないし，外に出ていったときに何するか分からないようなとらえ方もあるかなというところが親としてからの目線。先生がすごい苦労されているのは重々承知の上でお話をしています。

一応ＰＴＡ副会長，あと外部指導員的な立場から話をさせてもらうと，恐らく地域連携は学校主体。校長先生と話が反対になっていってしまうのですけれども，今実際僕がお付き合いさせていただいている他校のサッカーの先生たちは結構みんな情熱的で，そこにプ

ラスアルファ，僕ら外部指導員が入る。平日は学校の中で先生が見てくれる。でも休日になると全部僕にお任せなのです。外部指導員が子どもと試合の会場に行ったり，グラウンドでサッカーを教えてあげたり，親も学校に行っているから安心だよねというところもあるのかなと。今七中のサッカー部などはうまく連携が取れているかなと。

あとうちの息子はバドミントンをやっているのですけれども，バドミントンは人数が多いではないですか。そうすると保護者付きで大会へ行ってくださいみたいな，例えば朝の９時にやって負けてしまったら10時に帰るわけです。でも部活全員だと，先生の引率だけだと全員が終わるまで帰れなくなってしまう。そういったときに保護者の関わりが入っていって，子ども１人に付き保護者が行って帰る。団体戦とか違いますよね。個人の大会のときなどは，そのような形を取っているというお話も聞いております。

予算が付くのであればスポーツ部に関しては外部指導員をどんどん，人材を探すのはすごく大変ですけれども，そういったところで，まずはやる気のある顧問の先生と外部指導員がうまく連携体制を取りながら，だんだんと移行していくのがベストかなと個人的には思っています。

あとずっと地域クラブ活動という単語がさっきからものすごく出てきて，これは質問なのですけれども，どんな活動をイメージされているかなというところです。

○小林委員長　　これについてどうでしょうか。イメージはございますか。

○事務局（吉野）　　例えばいらっしゃっている団体であれば，調和ＳＨＣ倶楽部さんの中では地域に開かれたサークル活動をされていて，年齢層というところはあるのですけれども，仮に受け皿として中学生でもいけるとなった場合，１つの地域クラブとしての受け皿になり得ると思います。例えば文化だけではなくて，スポーツ活動でもできてくれば１つの受け皿になるとは思います。

○川端委員　　ありがとうございます。ちょっと事例が１件あるのですけれども，僕の友達がうちにいらっしゃったときに話したのですが，四中の野球部がなくなってしまったときに，生徒たちが路頭に迷ったときにＮＥＸＴというクラブチームを自分たちで作って，調布市内の子どもたちを集めて火曜日と日曜日，もう完全にお父さんたちの有志で作ったクラブがあるのです。これが恐らく地域移行のモデルケースになるのではないかなと思っているので，そういう代表との話もぜひ聞いていただきたいなと思っております。これは飽くまで御提案という形でお話しさせていただきます。

○小林委員長　　ありがとうございました。川端さん，この方向性，考え方についてどう

ですか。

○川端委員　　これに関してはものすごく難しいと思うのです。

○小林委員長　　難しいですね。今後，まずは休日とかね。

○川端委員　　休日からですね。

○小林委員長　　指導でというところから連携・移行みたいな，さっきの生野先生の話とちょっとまた違うのですけれども，そういうところが現実的かなと思ってはいるのですよね。

○川端委員　　地域の資源をどう探してくるか，すごいテーマなのです。

○小林委員長　　現場はそこですよね。苦労されるのはね。

○川端委員　　多分校長先生もそこが一番，あとコミュニティ・スクールが始まるので，そことの連携もものすごく大事ではないかなと。ここだけで決めるとかだと。

○小林委員長　　ちょうどスケジュール，タイミングがね。コミュニティ・スクールの整備とありますからね。

○川端委員　　そこども連携しながら地域移行のことを考えていかなければいけないのかなと。

○小林委員長　　分かりました。ありがとうございます。また何かありましたらお願いします。

　では，門脇委員，お願いします。

○門脇委員　　スポーツ協会の門脇です。よろしくお願いします。

　今日資料を拝見したばかりなのでなかなか。ただ，昨年11月とか準備会などもありましてある程度情報をいただいていたり，あとスポーツ振興課さんとのやり取りの中で，例えば令和６年度の予算編成の中で何かできないかということで，一緒にディスカッションさせていただいたところがあったり。そういったことはある程度事前にやってきていましたので今我々とすると，この会で作った計画をいかに継続するかというところで，我々スポーツ協会の一番の役割というのは先ほども出ていた資源というか，例えばスポーツの分野であれば，それを担う指導員であったり，あとは指導しないまでも教員のサポートをするようなスポーツボランティアであったり，加盟団体でも実際に指導しなくても役員などいろいろ携わっている方々がいますので，その方々の理解を得て部活動も地域連携から地域移行を担っていくのだと思うのです。それを支える人材を，スポーツ分野についてはしっかり我々が育成なのか，取り込んでいくのかという部分は，我々スポーツ協会が一番地域

で活動している方々に近いところにいるのかなと思っていますので，しっかり情報を流して取り込んでいく必要がある。それが我々の役割なのかと，現状直近としてはそうなのかなと思います。例えば33加盟団体，スポーツ指導員がいて，あとスポーツ少年団というのも地域にはありますし，スポーツボランティア。いろいろな形でスポーツが入っている組織がありますので，いかにそういった方々に，中学校世代のところに協力していただくところを取り込んでいくのが我々の役割だと，この間いろいろと話していく中でそう思っています。

まず，そもそも学校の先生の働き方改革みたいなところも少し関係しているのかなと思いますので，この間，スポーツ振興課さん，教育委員会さんと話していたのは，そういった先生方のサポートを，例えば休日のところに我々が派遣するような指導員がいて，毎週毎週先生が見るのではなくて,月に何回か行って先生の休暇が取れるような形でサポートをさせていただく。そこから入っていって平日，休日のお手伝いをまずさせていただくと同時に，やる気のある先生方は言い方は悪いですけれども土日でもやると思いますので，経験のない顧問の先生方に対してのサポートというところからまず入っていくと。それも外部指導員でやっていらっしゃると思います。一方で学校に行っても競技がない，やりたい種目がないような子どもたちがいると思いますので，そういった子どもたちを集めての合同部活動であったり，そういったところは我々としてもお手伝いができるかなと思っています。

ただ，実際に加盟団体のほうに情報を流して平日にできる人はいますかということで現状聞いてみると，正直ほとんどいない。ただ，全員に情報が行っているかどうかはちょっと分からないので，そういったところは検討委員会を進めていく中でもっと情報を流して，地域に埋もれているような競技の経験者もいるかもしれませんので，そういった方々をどんどん取り込んでいく必要があると思っています。

我々の役割とすると，そういった資源をしっかり抱えて手伝っていただくところがまず役割として，そこが意外と大変な部分なので，その方々がいないと成り立たない。我々スポーツ協会で中長期とかいろいろ作っていく中で，できれば地域移行にかかわる部分については我々としてもしっかり，できれば中心的な組織としてやりたいという思いはありますので，そこは市の方針ともちろん連携するのです。そういったところで，まずスポーツを指導できるような方々の確保と，あと段階的には中長期なことであったり，指導員の発見だったり，合同部活動の調整だったり，いろいろなところの役割を担っていければなと

いうところで職員間では実際もう既に話してはいます。

地域移行の資料12の案についても特に異論といったことは全くありませんし，ちょっと細かいところを話すと，我々スポーツ協会としてもう少し組織の拡大というところも考えておりますので，国体があって，オリンピックがあったり，いろいろなことがありますけれども部活動というのはすごく大きなことですし，そして半永久的に継続していくものだと思います。我々としても調布市と一緒にやるような組織なので，できれば部活動についてはしっかり携わっていきたいと思っています。今はこのぐらいでいいかなという。ちょっとまとまらないですけれども。

○小林委員長　　ありがとうございます。大変力強いお話をいただいて，１つキーワードというのか，資料のほうに出てくる持続可能な体制をどう作っていくかというのが大事かなと。打ち上げ花火的にばーんとやって，はい，それで終わりということではなくて，どうやって長らえていくか。そのムーブメントがどんどん大きくなって，子どもから大人まで発展していくところがイメージかなと思いますけれども，その中でスポーツ協会さんの果たしていただきたい役割というのは非常に大きなものがあるなと。コーディネーター的な機能も含めてですけれども，今後の協会の在り方というところにも及んでくる話かなと思いながら，今お話を伺ったところであります。

それでは，次に清水委員，お願いします。

○清水委員　　スポーツ推進委員会の清水です。

すみません，ちょっと勉強不足で盛りだくさんの情報を消化するのは難しいですが，資料12の５番，将来像についても書面でいけばこういうことなのだろうなと何となく理解はできるのですが，それを３年，４年の中で果たしてどこまでできるのというのが非常に難しい。学校教育の学校部活動をなくすわけですよね。

○小林委員長　　イメージとしてですね。

○清水委員　　地域スポーツをまちづくりの中に入れるというのは，最終形としては，今調布市には調和ＳＨＣ倶楽部さん，地域総合型がありますけれども，ああいうもののイメージが何個もできて，そこに移行していくことを考えているのですか。

○小林委員長　　国とか東京都の目指す方向だとね。

○清水委員　　そこには今までやっている中学校，高校も今後含まれるのかもしれないですけれども，学校教育の中での部活動。学校でやっていた部活動というものがもうないということなのですか。

○事務局（門田）　　国が示しているのは，今おっしゃられたように学校の教育活動。今学校の部活動は教育課程外の活動として位置付けられているのですけれども，部活動を今後は地域にどんどん移行して開かれたものにしていく。要は学校から部活動が離れていきますということが言われています。

○清水委員　　いろいろ現状はあるのですけれども一番大きいのは，やはり先生方の負担が大きいというのが現状なのですか。それだけではないですか。

○事務局（門田）　　そこがクローズアップされがちですけれども，国が目指すところは部活動を地域に移行していくことで，目指すゴールイメージにも書かせていただいているのですけれども，例えばスポーツを通じて多様な世代が集まって取り組むことを通して社会を活性化させていこうと。その中で，それぞれが幸せになっていく道筋を作っていこうという大きな方針があるのです。それに向けて取り組んでいきましょうということを今言われています。最終的なゴールイメージが，例えば２年，３年後に達成できるかと言われるとちょっと難しい状況があると思うので，それに向けては動き出しを我々としてもしていかなければいけないところで，今回方向性について提案させていただいております。

○清水委員　　今私の身近に，もう娘も大きいし，孫はまだ小学校も行っていないぐらいで，中学生の現状の部活動というものに対する意識がはっきり分からないので何とも言えないですけれども，私，調布市出身なので調中でバレーボールをずっとやっていたのです。そういう中の感覚でいくと，今の中学生の感覚も大分変わってきているだろうと思うのだけれども，さっきアンケートがありましたけれども本当に今彼らがどのように考えているか。これから小学校から中学校に行く子どもたちがどのように部活動をとらえているかというのをもう少し認識していかないと，何か方向性を間違ってしまうのかなという気は非常にしています。

あと我々の立場からすると，我々の活動はどちらかというと小学生ベース，高齢者とか障害者というところで，いわゆるアスリート系の部活動というよりは，レクリエーションとか健康のために体を動かすということで活動しているので，すぐさま部活動をどうのこうのとなかなか入りにくいのかなと思ったのです。

先ほどの資料でいくと，いわゆる部活動ではなくてレクリエーションであったり，多様性のあるようなスポーツに対することも踏まえてくれば，そういう面ではかかわっていけるのかなと思うのです。これが日常の中でやっていくとなるとかなり外部の人の負担も大きいし，あと責任問題はどのようになっていくかというのが非常に，この間スポーツ協会

で講演会があって指導の仕方とか，ハラスメントうんぬんとあって，そういうものを含めて我々ももっと勉強していかないと，協力するのでもなかなか教育しにくいというか，我々も教育されていかないと地域の中で指導していくのは非常に難しくなるのかなと感じました。

○小林委員長　　ありがとうございます。どうぞ。

○所委員　　今清水委員からおっしゃられていた見方をちょっと逆にしてみるといいのかなと思っているのが，今学校から部活動を切り離す。学校からの見方で見ているわけなのですけれども，逆に日本の社会というか，まちから見ていく。そうすると様々な世代の方が好きなスポーツだとか，文化芸術を楽しんで公民館であったりだとか，調和ＳＨＣなど総合型のクラブですけれどもあります。世界の中で日本だけがといってはいけないですけれども，そこから中学生，高校生がすっぽり抜けているという現実があるのだと思うのです。

目指しているのは，多世代というキーワードがあったと思うのですけれどもより多くの人たちが，それは中学生も高校生も含めてかかわってスポーツだとか，文化芸術活動もやっていけたらいいよねという流れなのです。単に学校から部活動を切り離すというと何かごっそり来る感じなのですが，今既にある中に中学生や高校生も入っていったらお互いにウィン・ウィンという言い方になるのか，ウェルビーイングという言い方になるのかなと思うのですが，逆のほうで受け入れていく受け皿があるといいのかなと。

今レクリエーション的なという。これは２つ目の話になるのですが，おっしゃられていたのがまさにそうなのかなと。今子どもたちの部活動に関する考え方もいろいろ変わってきて，１つのものを突き詰めてやりたい，非常に技術も上げたいと思っている子もいれば，幅広くいろいろなものもやりたい。ゆる部活という形で，そのようなお子さんも実際いるのです。いっぱいいろいろなものをやってみたい。ダンスもしたい，それからバドミントンもやりたいといっていた子たちにしてみると，部活動って中学校の場合ですと狭まれてしまう。地域には多様なスポーツとか文化芸術がありますので，そこに子どもたちが参加していけると，より自分の好きなものができて楽しめるとなるのかなと思います。

ただ，先ほどおっしゃられた責任は今後課題になっていくところで，国も都もそこの部分はどうしていくのかということがまだ決まっておりません。

○清水委員　　ありがとうございます。頭が固いのは分かっているのですが中学校のときの，どうしても部活動の意味というのもあったと思うのです。確かに狭くなってきて，多

様性の中でいけば今おっしゃられたとおりどこがいいのかというのもあるのだけれども，今までの中学校時代の部活動のよさというのもあったと思う。それをどうしていくかというのはある程度あるのかなと。子どもたちの考えが，もう私みたいな古い頭ではなくて変わってきていれば全然問題ないと思うのだけれども，そういうものもちょっと見てみないといけないのかなと思いました。おっしゃるとおりだと思います。

○小林委員長　　ありがとうございます。地域によっては地元の中学校の何々部，全国大会へ行ったから応援しようというものは一方であると思うのです。それは今後も残っていく部分かなと思うのですけれども，一方でスポーツをどうやって経験していくかだとか，レクリエーションとしてというスポーツ。あるいは芸術活動もそうですけれども，そのような見方というか，考え方のところも今後必要になってくるのかなと思います。

さらにこういう世の中ですのでハラスメントとか，昔のスパルタでびしびし鍛えて何やっているのだとか，水を飲んでいる場合ではないとか，そういう時代ではなくなってきているのは事実かと思いますので，地域にも支持されるような体制というところは，そこは意識しながら作っていきたいなと考えておりました。よろしくお願いいたします。

それでは，次に韮澤委員，お願いします。

○韮澤委員　　資料11のＳＨＣ倶楽部。ページでいうと４のところに種目が書いてありますけれども未就学児から40代まで，子どもたちの中にも，例えばチアダンスとテニスをしたいとか，そういう子どもたちがいます。

私たちのころ，昭和の終わりのほうなのですけれども部活はきちっと入っていました。五中さんが部活をなくすという。ちょっと前ですけれどもそういうアンケートを取ったことがあったときに，やはり部活がなくなるのは不安ということもあってなくなることはなかったのです。

今子どもたちは部活をやりたいけれども，例えば六中に男子バレーがないので四中の学校に入ってバレーをしている子もいますから，部員不足で１つのチームで大会に学校としてエントリーができないところでいうと，例えばＳＨＣのバレーボールのクラブでエントリーできるとか，大会の内容変更にもかかわることかもしれませんし，ＳＨＣ倶楽部としては多様性とか，多世代ということを常にうたっております。中学校というのは通過点でしかないので，例えば中学校でしていた部活が高校になったら違う部活に入るかもしれないし，ずっと１つのものを続けていってトップアスリートになるお子さんもいれば，途中から変わって，八村塁君などもそうですよね。たしか野球をやっていたのがバスケットに

なったのですよね。そういうお子さんもいますからいろいろな種目を体験して，自分にどれが合っているかを考えるところでもあると思うのです。

ある程度の体格ができてくる中学校というのは，そこをどのようにしていくかということと，調和ＳＨＣ倶楽部が発足当時も総合体育館と各中学校区に１つ総合型スポーツクラブを作るという案も過去にあったので，そういう流れに徐々になっていくのかなと。学校の子どもたちが部活でなく学校以外のところで活動するのは保護者からすると不安なので，やはり学校に近いところに体験できる場所，活動できる場所があるというのは親子にとっても安全な感覚ではあると思います。

○小林委員長　　ありがとうございます。オブザーバーの御発言は。

○調和ＳＨＣ倶楽部小髙　今いろいろ聞かせていただいたのですが，資料12の中に地域資源という言葉があるので，もちろん人を指したりすると思うのですが何回かいろいろなところで話をさせていただくと，最終的には調布市内にある学校施設の開放が多分大きな問題になってくると思うのです。

我々ＳＨＣ倶楽部は調和小学校を中心に活動させてもらっているのですが，随時大人が出入りしていく。中学校もこれをやることによって，いろいろな方が出入りすることが多分想定されると思うのです。

先ほどから言われている継続可能な方法ということを考えると，各中学校単位で我々みたいなところ，総合型のクラブではないですけれども何か大人が自然にいて，そこで地域の子どもたちが一緒に活動できる場所を常に続けていけば自然と地域移行に移れるのではないかなと。中学校，高校って中体連や高体連があって，そこだけで試合をしなければいけないというのがあったり。でも我々ＳＨＣ倶楽部でバドミントンとかいろいろなサークルがあるのですが，中学１年生になったばかりの子って部活に行くと，まずシャトルを打たせてもらえないことがあるわけです。そうすると我々みたいなクラブというと，おじいちゃん，おばあちゃんたちと一緒に楽しくシャトルを打てるのです。だけど２年生ぐらいになると，もう部活で打てるようになるとちょっと物足りなくなって部活に戻って，たまに１年に１回ぐらい来たりすることがあるのです。そういうことが自然と起きてくるので多世代間のかかわりって，おじいちゃんたちもたまに若い子たちとやると，ちょっと元気で怖いのだけど楽しいところもあったり。

指導員について，やはり地域の人たち，特に働いている方たちをターゲットにするのはなかなか難しいと思うのです。この辺は近隣の大学とか，そういうところの教員課程を目

指す方々にもっと門戸を広げて採用するなりなんなりして循環していくと思うのです。そういうこともちょっと考えたらいいのかと思います。

○小林委員長　　急に振ってしまってすみません。ありがとうございました。今の韮澤さんの話の大会規程の見直しとか，その辺はどうでしょう。

○事務局（門田）　　今お話の中で中体連の大会の参加についていただいているところなのですけれども，中体連のほうでも大会の参加規程の見直しが始まってきていて，本年度もそうなのですけれども，種目にもよるのですが学校単独での参加以外に，地域のクラブ活動で登録して大会の参加が認められてきている状況がございますので，これまでのイメージを大分払しょくしてきている。それが令和６年度以降はどんどん進んでくるだろうと考えています。今年度地域クラブで大会に参加した数を令和６年度は多分大幅に上回ってくるのではないかなと，そのように見ています。

○小林委員長　　ありがとうございます。あと学校開放の話もありましたけれども，当然我々としても，その辺も今後の展開という中でイメージしているがゆえに施設担当だとか，社会教育とかのメンバーも検討委員会の中に入ってもらっているということですので，議論の進み具合によってまた発言も求めていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

今までずっとスポーツだったのですけれども，芸術の内容でいかがですか。

○大割委員　　たづくりなどではいろいろな文化芸術に関する団体が登録されて，いろいろな活動をされていますけれども，ほとんどが中高年の方々。若い世代，若年層の参加みたいなものを推進しようとしてきたのですけれどもなかなか進まないのは，中学生，高校生は部活動をやっているからなのだと思うのです。そこが今後は大きく変わってくる状況で，好ましい変化だと思うのですけれども，正直今まで施設的にも事業的にも余り想定してこなかったことです。８年度までのスケジュールが示されていますけれどももう少し時間が，我々の事業の在り方を変えて部活動に代わるようなものをするとか，施設利用の面で地域のクラブ活動ができるように協力させていただく。そういうことになろうかと思うのですけれども，少しずつ試行的に取り組ませてもらえればなと思っています。

○小林委員長　　ありがとうございます。今様々御意見をいただきまして，ここまでのまとめというと変なのですけれども，阿部委員，総括として御意見等賜ればと思います。よろしくお願いします。

○阿部（隆）委員　　ここまでの皆さんの御意見ですとか，調布市の御意向としまして，国としては多分100％地域のところで考えていると思うのですけれども，ぜひ調布市では

ゼロか100とか，学校か地域とか，白か黒みたいなはっきりしたところではなくて，この部活は学校中心でやる。この部活に関しては地域に全部移すとか,職業柄いろいろな自治体の事例を見ているのですけれども本当に正解がないというか，その自治体だからこそ，そのやり方で正解になっているというのが今回の部活動移行かなと考えております。

例えば茨城県つくば市ですとか，長崎県長与町というところでも,好事例だということでスポーツ庁でも紹介されているのですけれども，それがそのままそっくり調布市に当てはまるかというと，私は当てはまらないと思っております。調布市の中でも，調和ＳＨＣさんとか本当に好事例があると思うのです。何で調布市で好事例として成功しているのかというところの分析ですとか，足りないところは何なのかというところも分析していく必要があるのかなと思います。

不思議なもので,部活って本当にゼロ円でやってくれるというのが保護者のほうからも，私も保護者なのですけれども，例えばテニス部だと部費は月1,000円ぐらいなのです。でもテニススクールに入ると月１万，２万はざらという感じで，同じテニスの習い事なのにゼロ円か１万円かというところで，では地域移行したときに部活でお金を払うかというと，結構ハードルが高いと思うのです。本当に教員の自己犠牲の下に成り立っていたシステムですので，そこの頭をちょっと変えていかないといけないかなというところです。

さっきの長崎県長与町の話でいうと月3,000円取っているのです。生徒からです。ただ，就学支援金とかで2,000円フォローしていたり，そういったところで受益者負担のフォローも自治体のほうに求められるのかなと思っております。

個人的には，人材確保・人材育成で指導者をどう確保するかというところに注目しております。先ほどもお話があったのですけれども私も立場柄，ぜひ大学を活用していただきたいというところはあります。

教員養成の教育実習は，今まで４年生で４週間行っていたのが分割になりまして，１，２年生，３年生で１週間ずつ学校に出る。その１週間というのは，例えば月曜日の午後，通年で学校に出るようなシステムも出てくるので，それが単位化するのです。では週１の，この曜日は自分の学校に来てくれる大学生を活用する可能性も出てくるのではないかなと思います。

あとは先ほどのゆる部活動というところで私も何校か実践がありますので，また違う機会に紹介させていただければと思います。

○小林委員長　　ありがとうございます。御意見の中にも出てきましたけれども，我々発

想の転換が今この時代は求められているのかなと，ひしひしと感じているところであります。そういった中での中学校の部活動の在り方について，今様々お考え等をお聞きしたところであります。大学生の活用というところもぜひまたお話を伺えればと思います。この辺を聞いたところで，では八角部長，お考えと御意見はいかがですか。

○八角委員　　改めまして，生活文化スポーツ部長の八角です。

外部委員の皆さん，今日はありがとうございました。それぞれ外部委員の皆さんのお立場の言葉を受けまして，それぞれの視点で一つ一つ整理していく必要があるのかなと。具体的に言えば学校現場の視点ですとか，普段部活動の指導をされている子どもたちの声，視点。それから地域で文化芸術振興を担っている皆さんの立場を整理して，大事なのは国のガイドラインの方向性にもあるとおり，子どもたちの望ましい姿，それから子どもの成長につなげていく視点が大事なのかなと思っています。

ありがたいことに，これは全国的な課題で，それぞれ課題の解決に向き合っているのですけれども，調布市は今日御出席いただいている外部委員の中でも，地域資源と言っていいのか分かりませんが市と連携を深めさせていただいて文化芸術，あるいはスポーツのそれぞれの担い手が豊富にいますので可能性としては，調布らしさの検討ができるのかなと思っています。

今日は第１回目の検討でありますので一つ一つ望ましい姿を検討して，最適な在り方検討をして望ましい姿につなげていければなと。今日外部委員の皆さんのそれぞれの御意見をいただいたことは，本当によかったのかなと思っています。第２回目以降，具体的な検討部会で推進計画を策定する中でトライアル事業も実施していきますので，そういう検証もしながら調布らしさの枠組みが検討できればなと思っておりますので，また引き続きよろしくお願いします。

○小林委員長　　ありがとうございました。行政経営部の視点から伊藤副参事，一言お願いします。

○伊藤委員　　御説明，それから先ほど外部委員の皆様の御意見を聞いている中で，その立場，立場によっても受け止めなり，地域連携・地域移行に対する考えはいろいろあるだろうなと感じています。

実際今後やっていくに当たって，今ありましたけれども子どもたちにとってというところが大事になってくるのかなと思っております。そのためには今目指す姿なども資料12で示されておりますけれども，こういったものについてしっかり共通認識を皆さんで持つこ

とが大事。より具体的なイメージになってくるかと思いますが，それに向かって何が課題になるのか。先ほどありました人材確保であったり，それこそ持続可能性みたいな話だからそういった課題についてもしっかり共通認識を持ちながら検討を進めることが大事だと思っています。こういった議論の中では気になること，気づいたこと，それからもう御存じの内容というのはしっかり話し合って取り組むことが大事だと思っております。そういった視点からも今後,私もかかわりたいと思っております。

○小林委員長　　ありがとうございました。

時間のほうも大分たってまいりましたけれども，今様々な御意見，御質問，御感想等いただきまして，ありがとうございました。

先ほど来話が出ています調布の力というか，魅力というか，本当にいろいろな地域資源があって，非常に協力的な姿勢というところを皆さんが持ち合わせていただいている。今日お話をいろいろ伺う中で，多分ここにいる方は今後の可能性というのをすごく感じた委員会ではなかったかなと思います。うまく組み合わせといいますか，コーディネートしていけば調布ならではの部活動，さらにはスポーツ振興につながるのではないかなというように，私自身は強く感じたところでありました。

皆さんにお聞きした資料12の今後の方向性については，基本この内容で進めていくということでよろしいでしょうか。御異論ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○小林委員長　　様々細かい御意見をまた都度お話をいただきながら進めてまいりたいと思います。初回，第１回目の検討委員会の中で方向性については了承という形で進めさせていただきたいと思いますので，よろしくお願いいたします。今日いただいた御意見等につきましては，今後の検討にしっかり生かしてまいりたいと思います。今後もございますけれども，今日は有意義な会合になったかと思いましたので感謝の気持ちを述べさせていただいて，ここからの進行は事務局のほうに戻したいと思います。ありがとうございました。

○司会　　皆様，ありがとうございました。

９　その他

○司会（佐藤）　　それでは，次第の９，その他に移らせていただきます。特に資料はございません。今後の進め方については先ほどから御説明させていただいているとおり，本

日いただいた御意見，御感想などを踏まえ，今後検討部会において具体的な議論を進めてまいりたいと考えております。

次回の検討委員会の開催は令和６年７月末ごろを予定しておりますので，その際に計画の素案，たたき台をお示しできたらと思っております。会が近づきましたら開催通知を発送いたしますので，よろしくお願いいたします。また委員の改選などがある場合もございますので，その際は改めてこちらからお声掛けをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

その他，事務連絡を申しあげます。今後議事録を作成する上で市ホームページのほうで公開を予定していますので，公開前に一度内容の確認を委員の皆様方にさせていただきますので，その際は御協力をお願いいたします。

以上となります。

では，次第の最後です。閉会というところで，指導室長の所よりごあいさつを申しあげます。

○所委員　　指導室長の所でございます。

本日は年度末の大変お忙しい中，そして非常に天気もよろしくない中お集まりいただきまして，ありがとうございます。それぞれのお立場から今回部活動の地域連携・地域移行について様々な御意見をいただきまして，本当にありがとうございます。参加させていただいてお話を伺いながら特に思ったことは，やはり調布の力ってすごいなと思いました。それぞれのお立場のところからこれならできるのではないかとか，ここのところだったらこういう工夫ができるのではないかというお話をたくさんいただいたかなと思っております。

なかなか地域連携・地域移行というのは，実は改革推進期間も，最初は改革の期間だというように推進が外れていたところが入ったりとか，それからもっと早く平日に移行するのだという形でスケジューリングを，国のほうでは非常に早いものを当初示されていたのです。ところが実際やるという形で国が出してきたら，やはりどの地域も自治体も二の足を踏む。どうしたらいいだろうかといった中で，調布市の場合は今年度末ではあるのですがこのように開催させていただいて，そして様々な御意見をいただいて，これならできるのではないか。

先ほど事務局からは，トライアルというものも出てきております。スポーツ協会のほうからは，こんなことで人材確保ということもできるのではないか。または文化・コミュニティのほうからは，こういうところに取り込んでいけるようなことも少しずつできるのではない

か。またＳＨＣのほうでは，この活動が中学校単位で少しずつ広がっていけばいいのではないかというようなお話もいただいて，可能性が広がったかなと思っているところです。

本日資料12に関しましてはこの流れ，この方向性ということで確認が取れましたので，今後７月末には第２回が実施されるわけなのですが，検討部会がこれからいよいよ動き出していく。取りあえずはトライアルのところから動くのかなと思っているのですが，より調布の力が感じられるような形での提案をさせていただくことができるのかなと思っているところでございます。

地域の子どもたちは学校を含めた地域で育てるという理念。私たちの地域の中にいる調布っ子にとってどうなのかということで，今後も進めていっていただけたらなと思っております。ぜひ今後とも御協力のほどよろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

―――――――――――――――――　――　―――――――――――――――――

10　閉会

○司会（佐藤）　　それでは，これにてすべての議題が終了いたしました。

以上をもちまして，第１回調布市立中学校部活動地域連携・地域移行に係る検討委員会を終了いたします。長時間にわたり皆様ありがとうございました。お疲れさまでございます。